

豚肉情勢

8月13日 更新

JA全農ミートフーズ株式会社

項 目		内 容					備 考				
供給	1.国産	○ 6月の全国豚と畜頭数は、1,193千頭と前年を下回った。(前年比89.9%)。 地域別と畜頭数(数値は前年同月比);北海道90.4%、東北87.0%、関東87.8%、北陸甲信越85.0%、東海90.9%、近畿93.8%、中四国92.0%、九州・沖縄93.2% ○ 7月の全国と畜頭数は、1,310千頭(速報値7月31日まで集計、前年比105.0%)と前年を上回る見込みとなった。 なお、稼働日数は昨年より2日多く、1日当たりの平均と畜頭数は59,545頭(前年実績:62,970頭/日、前年差▲3,425頭/日)となった。 ○ 肉豚生産出荷予測(農水省食肉鶏卵課;7月24日付け)によると、8月;1,294千頭(前年比100%)、9月;1,323千頭(同102%)、10月;1,432千頭(同100%)、11月:1,468千頭(同99%)、12月:1,485千頭(同102%)であり、今後5か月間の合計頭数は前年比約100%と前年並みの見込み。					国内生産量の推移 (千頭:%) 農水省出荷予測 (千頭:%)				
	2.輸入	○ 6月の輸入通関実績は、豚肉全体で81.7千ﾄﾝ(前年比100.3%、前月比86.8%)と前年並みとなった。 内訳は、チルドが30.2千ﾄﾝ(前年比97.5%、前月比90.1%)、フローズンは51.5千ﾄﾝ(同102.1%、同85.0%)となった。 国別でみると、チルドではカナダ、メキシコが増加し、米国が減少した。フローズンでは米国、カナダ、デンマークが増加し、スペイン、メキシコが減少した。 (参考)形態別相手国別輸入数量 チルド ;カナダ16.1千ﾄﾝ(前年比122.6%)、米国10.8千ﾄﾝ(同73.5%)、メキシコ3.4千ﾄﾝ(同104.8%) フローズン ;スペイン14.3千ﾄﾝ(前年比97.4%)、米国8.0千ﾄﾝ(同113.2%)、メキシコ5.7千ﾄﾝ(同63.5%)、カナダ5.3千ﾄﾝ(同120.8%)、デンマーク4.0千ﾄﾝ(同131.2%) ○ (独)農畜産業振興機構の需給予測(7月29日公表)によると、7月の輸入量:82.9千ﾄﾝ(前年比110.8%)、8月の輸入量:81.5千ﾄﾝ(同110.3%)と7月、8月ともに上回ると見込まれる。 チルドは、現地相場高の影響により米国産の減少が見込まれること等から、7月、8月ともに前年同月を下回ると見込まれる。 フローズンは、米国産の増加が見込まれること等から、7月、8月ともに前年同月を上回ると見込んでいる。 3か月平均では、チルドは下回り、フローズンは上回ると見込んでいる。 令和6年 7月:合計82.9千ﾄﾝ(前年比110.8%)、チルド30.1千ﾄﾝ(同99.4%)、フローズン52.8千ﾄﾝ(同118.5%) 令和6年 8月:合計81.5千ﾄﾝ(前年比110.3%)、チルド31.1千ﾄﾝ(同87.8%)、フローズン50.4千ﾄﾝ(同131.2%) 直近3か月(6月～8月)平均:合計82.0千ﾄﾝ(前年比107.0%)、チルド30.6千ﾄﾝ(同94.9%)、フローズン51.4千ﾄﾝ(同115.8%)					R2年 8月 1,294 100 R3年 9月 1,323 102 R6年 10月 1,432 100 R6年 11月 1,468 99 R6年 12月 1,485 102				
							輸入量の推移 (ﾄﾝ・%) 財務省 :通関実績				
需要	1.家計消費	○ 総務省発表の6月度家計調査報告によると、全国二人以上の1世帯当たり豚肉購入数量は1,804g(前年比101.7%)、支出金額が2,727円(同101.7%)となり、購入量、金額ともに前年を上回った。					R2年 891,807 93.0 416,334 102.2				
	2.小売動向	○ 日本スーパーマーケット協会など食品関連スーパー3団体の6月の販売統計速報によると、畜産部門の売上高は1,136.2億円(前年比102.9%、既存店ベース101.8%)と前年を上回った。 6月は前年より土日が1日ずつ多く販売は回復したが、全般的な相場高傾向が続き販促しづらい状況が続いている。値ごろ感のある鶏肉へ需要シフトが強まっている。牛肉は、父の日用のステーキ、気温上昇により焼肉用は一部で需要が回復したが、和牛など高単価商品を中心に苦戦している。豚肉は、小間切れやひき肉など値ごろな商材に需要が回復傾向。鶏肉は販売が伸長しているが、加工肉は好不調の判断がわかれる。					R3年 903,455 101.3 420,361 101.0				
	6月概況	○ 日本チェーンストア協会が公表した6月販売概況によると、畜産品の売上は823.5円(店舗調整後で前年比103.4%)となり、前年を上回った。 豚肉、鶏肉の動きは良かったものの、牛肉の動きは鈍かった。鶏卵、ハム・ソーセージの動きは鈍かった。					R4年 977,158 108.3 403,854 96.3				
	7月概況	○ 全国的な酷暑により肉豚の成育に影響が出たことで国内出荷頭数が伸び悩み需給がひっ迫した。 学校給食の終了により一時的に需給が緩和したが、全国的な緩和に至らず需給は引き締まったまま推移した。					R5年 919,713 94.2 393,416 99.1				
	3.加工肉仕向量	○ 日本ハム・ソーセージ工業協同組合発表の6月の豚肉加工品仕向量は30.1千ﾄﾝ(前年比102.9%)と、加工品の値上げによる販売不振は続くが、前年を上回った。 内訳は、国産原料6.0千ﾄﾝ(前年比104.9%)・輸入原料24.1千ﾄﾝ(同102.4%)となった。 なお、上記仕向量とは別枠のシーズンドポークは8.5千ﾄﾝ(前年比86.7%)と、前年を下回った。					R6年 3月 74,397 107.6 34,018 94.5				
在庫	1.在庫	○ (独)農畜産業振興機構の需給予測(7月29日公表)によると、6月末の推定期末在庫量は217.9千ﾄﾝ(前年比89.0%、前月比101.7%)となり、前年を下回った。 内訳は、輸入品;193.2千ﾄﾝ(前年比85.8%、前月比101.7%)と前年を下回り、国産品;24.8千ﾄﾝ(同126.4%、同102.5%)と前年を上回った。 また、今後の期末在庫は、7月は219.2千ﾄﾝ(同91.0%)、8月は224.5千ﾄﾝ(同94.0%)と前年を下回って推移するものと見られる。					R6年 4月 98,842 90.1 33,719 101.1				
							R6年 5月 94,126 104.0 33,549 95.6				
							R6年 6月 81,705 100.3 30,230 97.5				
枝肉相場	1.R6年7速報値	○ 7月の東京市場枝肉卸売価格(速報値;7月31日時点)は、831円/kg(前年比122.4%)と前年を上回った。 7月は、全国的な酷暑により肉豚の成育に影響がでたことで、需給がひっ迫し、高値で推移した。中旬には学校給食の終了により一時的に需給が緩和し値下がりのものの、全国的な需給緩和には至らず再び高値で推移したため、前年・前月ともに大きく上回った。					家計消費量 (㌔, 円, %) R2年 22,973 108.5 32,861 110.9 R3年 22,559 98.2 31,892 97.1 R4年 22,297 98.8 32,487 101.9 R5年 22,031 98.8 33,553 103.4 R6年 3月 1,921 103.4 2,893 104.7 R6年 4月 1,791 95.3 2,695 95.7 R6年 5月 1,835 99.1 2,742 100.1 R6年 6月 1,804 101.7 2,727 101.7				
	2.予測	○ 8月は、7月に続き暑い日が続くと見込まれるものの、肉豚の成育遅れによる出荷頭数減は徐々に回復してくることが想定されることや、 需要面では地方での帰省需要に期待感はあるものの、残暑と生活防衛意識から豚肉消費の減退が見込まれるため、月平均では弱含みでの推移が想定される。					加工品仕向量 (千ﾄﾝ・%) 市況の推移(東京市場)(円/kg・%) R2年 376.7 101.5 R2年 561 106.9 R3年 379.4 100.6 R3年 546 97.3 R4年 368.5 97.4 R4年 582 107.0 R5年 336.4 91.5 R5年 609 104.9 R6年 2月 26.8 93.5 R6年4月 613 109.1 R6年 3月 30.7 108.7 R6年5月 714 111.0 R6年 4月 29.6 106.9 R6年6月 754 108.0 R6年 5月 30.1 102.9 R6年7月速報値 831 122.4				
	R6年8月										
		<相場予想: 東京市場、税込み> 【上物】(前年比)					6月実績 7月速報値 8月予測 9月予測 754円/kg(108.2%) 831円/kg(122.4%) 780円/kg(109.9%) 700円/kg(100.7%)				